

## これからの附属学校のあり方を考える協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝國分充・東京学芸大学長）は、11月19日（土）、全国国立大学附属学校連盟との共催により、これからの附属学校のあり方を考える協議会を東京学芸大学（東京都小金井市）において3年ぶりに対面形式で開催し、附属学校園を置く国立教員養成大学・学部の附属学校担当理事・副学長、学部長、附属学校部長・統括長等及び附属学校園の校長・副校長等をはじめとする関係者約130名が出席した。

開会の挨拶で國分会長は、「コロナ禍でGIGAスクール化が進むと同時に、令和の学びは個別最適な学び・協働的な学びというこれまでとは大きく異なるものが提案されている。こうした学びの大転換点において、国立大学附属学校園には、一般の学校を先導する学校教育のモデルを示していくことが期待されている。本協議会が、国立大学附属学校園が蓄積してきたノウハウを生かし、大学と協働して令和の学びを先導する取組を進めていくための議論を交わす機会となることを期待している。」と述べた。

続く来賓挨拶で大竹昌士全国国立大学附属学校PTA連合会長は、「平成29年の有識者会議の報告書が出て以来、全国の大学・学部、附属学校園で様々な改革が行われてきたが、今年度からは第4期中期目標・中期計画もスタートしており、新たな使命も出てきている。そのような中で、保護者と学校が協働する大学・附属学校・保護者の三位一体の改革は大変重要なことであると考えており、今後お互いに協力していきたい。」と述べた。

その後、事例発表として、小林一博北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程副校長から「子どものいる教育研修支援センターとしての取組と成果」について、吉田隆奈良女子大学教授・奈良女子大学附属中等教育学校長から「大学連携・高大接続文理統合探究プログラム」について、荒川真一大阪教育大学附属池田小学校副校長から「学校における安全教育・危機管理」について、富田明德兵庫教育大学附属小学校長から「兵庫教育大学附属小学校に期待される役割」について、宮川洋一岩手大学教育学部教授・教育学部長特別補佐から「現代的教育課題（ICT・情報教育）への大学教育学部・附属学校園、行政、地域一体となった取組」について、それぞれ説明があった。

休憩を挟み、文部科学省の説明として、小畑康生総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長から、「今、附属学校に伝えたいこと」について説明があり、続いて事例発表者、小畑室長をパネリストとして、パネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、田中一晃全附連事務局長をコーディネーターとし、「附属学校に求められる公共性」をテーマに、各パネリストから発言があり、引き続きフロアも含めて活発な意見交換がなされた。

最後に、垂井由博全国国立大学附属学校連盟副理事長（京都教育大学附属京都小中学校副校長）の協議会総括及び池田聖全国国立大学附属学校連盟副理事長（宇都宮大学共同教育学部附属小・中学校長）の閉会挨拶があり、盛会のうちに閉会となった。



國分会長



大竹全国国立大学附属学校PTA連合会長



小畑教員養成企画室長



パネルディスカッションの様子

(左から：小林副校長、吉田校長、荒川副校長、富田校長、宮川特別補佐、小畑室長、田中全附連事務局長)



会場の様子